



なつのおも



本校ホームページ
携帯・スマホ用サイト
でもご覧ください。

第146号 (R3. 11. 1)

練馬区立光が丘夏の雲小学校

よそおい 莊嚴は 心の内にぞ 用うべき 錦の袋も 中が大切

校長 牧野光洋

自分の命を守る手段として、マスク生活が浸透している現社会。3年間も続くと中学生や高校生は入学以来ほとんどの学校生活でマスク顔しか交流していないこととなります。このままのこの生活が続くと同級生の顔もよくわからぬままに卒業。同窓会で出会ってもマスクをかけないと判明できない事態になりかねませんね。さて、冬になると厳寒の地で生活していた友人の話が耳によみがえります。友人が友人の女性に「冬になると美人が増えたな！」とつぶやくシーン。その女性は「ロングコートを着て、雪焼けしないように厚いお化粧をするからよ」そして「なるほどな」と嘆息を漏らして喧嘩になったこと。今でも覚えています。外見の^{よそおい}莊嚴も大切でしょうが、ぜひとも中身、心の^{よそおい}莊嚴も同時に心掛けて欲しいものです。お化粧する度に、身も心も美しくなる気構えを男性も女性ももたねばなりません。「人は、外見も心も美しくなる。」冬でなくともマスクをしていても同じかもしれませぬ。大抵の方が、外出する時、「自分は美しく見えるだろうか？カッコ悪くないかな？」と自己点検。鏡に映して見るかもしれませぬ。その時、一緒に自分の心掛けも点検し、鏡に映して見てください。「温かい気持ち、爽やかな顔をしているかな？」外出先では「困っている子供がい



たら、私に声をかけるに違いない」と自分で思えるような『あなた』でなくてはなりません。そしていよいよその場面！雑踏の中、困っている子供があなたに声をかけます。「この綺麗な人なら、優しそうだ」と思って勇気を振り絞り「ねえ！」振り返った綺麗な身なりの人は、般若のような顔をして「何よ！」「美しい錦の袋の中身は、恐ろしい毒蛇だった。」と子供に感じさせては困ります。さらに、服装を選ぶ時は、「自分がどのように見られるか」よりも、自分を見た人が「どのような気持ちになるか」を考えると爽やかになります。相手の気持ちを温かくする服装、あなたの側にいると肩が凝らないとか、相手の心が和む^{よそおい}莊嚴が素敵ですね。そう考えると服装選びも、あまり悩まず気軽に出来るのではないのでしょうか？人の

美しさの七割以上が顔の表情・暖かさ、心の莊嚴（美しさ）によります。心で勝負！私の笑顔を見よ！お互いが自信をもって言える世界に戻りたいですね。先日の運動会も「走」と「表現」、眼が輝いて校庭一杯に練習で培った自信を振りまいてくれました。これからも命を守ることを最優先にしながら、皆様のご理解とご協力を賜り、錦の袋の中を豊かにすべく、子供たちが安心安全に生活できるよう頑張ります。

